

さいたま市総合振興計画審議会第1部会 第1回部会の主な意見について

- 分野別の議論も必要だが、総合的に議論して、各分野が連携して取り組むことについて、地域と行政で役割分担していくことが大切である。
 - 総合的に物事を考えることは大切で、場合によっては他部会の分野とも絡めながら、関連することも一緒に議論していきたい。
 - 現行の基本計画における「多核連携型」の将来都市構造に、「集約」ということを全面的に押し出すという意味で、「多核連携・集約型」としたことは重要な視点である。
 - 東西都市軸が弱く不便であり、車の二酸化炭素排出量が多いため、公共交通への利用転換を図り、低炭素なまちをつくるととも、東西の流れをつくることが重要である。また、高齢化が進む中で、モビリティの問題を考える必要がある。
 - 都市計画道路の整備率は全ての政令指定都市の中で一番低く、公園も少ない。
 - 郊外に多くの大型店舗が進出している中で、人が来ている大宮や浦和以外の駅周辺地域にいかにか人を集めるか、いかにか地元の商店街の活性化するかが課題である。
 - 交通ネットワークと土地利用の話は、車で言えば両輪である。土地利用の規制・誘導によって都市機能の集約化を図ることと、自動車を抑制して公共交通等への利用転換を図ることの2つの両輪の考え方を意識した文書づくりが大切だ。
 - 気温の高さは、ヒートアイランドが影響しているので、クールスポット（涼しい場所）を適宜設ける、つまり水と緑を増やすことが必要である。
 - 見沼田圃をいかにか保全するかが課題で、農地を手放したい農家は多く、後継者も不足もしている。トイレや駐車場もなく、何とか整備してほしい。
 - 見沼田圃など多くの問題は、当事者だけでは解決が難しく、どう連携していくかが重要である。
 - 市内のデザインの質をもう少ししっかりすべきである。景観に関してしっかりと誘導し、デザインとしてワンランク上の質を目指してもいいのではないかな。
- ※ 第1回～第3回の部会でのご意見を踏まえ、事務局で計画素案を修正し、第4回の部会において提示する予定です。